

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391500164		
法人名	社会福祉法人 光総会		
事業所名	ぐるーぷほーむ やすらぎ		
所在地	熊本県天草市五和町御領六四四七番地		
自己評価作成日	平成24年9月3日	評価結果市町村受理日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年9月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

普段、家庭的なつながりが途絶えがちな利用者様へ、家族の買い物に職員と利用者様と家族と一緒に付き添い支援をするという活動を一部始めました。今年も町の夏祭りへ、家族、利用者様、職員、運営推進会議の参加者の皆さまをお誘いして地域活動を行いました。また、今年は、各介護について、重要な事について、各委員会を設置して、積極的に実施出来るようにしました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年度、ホームの理念を新たにしようとして開所以来、数年を経て管理者や職員の意気込みが書類や入居者との関わりの様子から伺い知ることが出来る。身体拘束を未然に防止する為のチェックリストや、個別外出時の支援のあり方など、一人ひとりの入居者をしっかりと受け止め把握することで必要な対応を見極めている。歴史ある門前町は入居者に馴染みの商店や散歩コースを提供し、古くから続く伝統行事に今年は家族と共に参加している。地域で暮らす一人として入居者が外部へ出る機会を企画し、「地域の縁側、町のリビングルーム」と命名された交流スペースを地域に開放し、入居者を取り巻く多くの人々と交流を図るべく尽力している。男性職員の力強い声がリビングから漏れ、入居者の笑い声が穏やかな日常を物語っており、今後の取り組みが期待されるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り終了時に勤務者全員で唱和している。	開所当時から理念が更に身近なものとなりケアの根幹となるよう全職員が関わり、4項目からなる新たな理念を作り上げている。ホーム内に掲示して毎朝の申し送りで唱和し、原点に立ち返りながら日々の支援に当たっている。ホームパンフレットに外部者に向けて分かりやすく紹介し、運営推進会議の参加者へも理念の見直しを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	街中への買い物や食事に定期的に出かける。今年は、家族も誘い、職員とBBQをし、夏祭り参加をした。	管理者は地域連携の重要性を日々の近隣との関わりや研修から実感し、入居者が地域の中へ出かける機会を設けている。日中の暑さを避け夕方からの散歩や地域資源を活用した商店での買い物、美容室の利用、定期的な外食や保育園児との交流など外部の人々との接点を見出し多くの支援に繋げている。又、中学生のワークキャンプやヘルパー研修の実習受け入れ、認知症サポーターの講習など地域貢献にも助力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	シルバーヘルパー講演の実施 (平成24年8月8日)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の実施を行っている。	隣接する多機能ホームとの合同会議となっている。地区代表者や包括職員、必要時には警察や消防団、近隣商店などからも参加が得られている。活動報告や毎月の研修報告の後、参加者から地域情報やホームへの質問事項などが出されている。災害時の連携について他地域で実施された津波災害対策を受け、当地域での今後の取り組みについて意見が出されている。	分かりやすく詳細な議事録であり、リビングカウンターなどに置き家族へ開示することで会議の目的にも繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の職員の代わりに北地域包括からの参加がある。	推進会議に参加する包括職員とは質問や相談事に応じてもらう関係であり、地域で暮らす高齢者の情報や問題点などについても話し合っている。管理者は書類提出や必要な時に役所を訪れ行政との関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、各職員の理解度を確認し、拘束防止チェックリスト実施する。また、事例検討会を実施している。	本年度、新たに作成した「身体拘束を行わない為のチェックリスト」は、複数の職員から見た入居者の心身の状況を項目ごとにチェックし、個々の状況をしっかりと把握することで拘束に繋がるような対応を未然に防ぐ事を目的としている。職員間で共有しながら事例検討会、研修会で認識を深め、スピーチロックについてもお互いに心を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、各職員の理解度を確認し、拘束防止チェックリスト実施する。また、事例検討会を実施している。年に一度は、施設内・外研修への参加をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフットを施設に準備しており、施設内研修の予定を空いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎回、施設長より、全ての内容の読み合わせをし質問を受けたくうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者代表の運営推進会議参加、来訪時の相談支援を管理者、施設職員一同で行なっている。	入居者との日々の関わりの中で思いを引き出し、表現困難な方へは寄り添いながら表情や行動から推察している。家族の面会時には担当した職員が意向や要望を聞き取り、申し送りノートやミーティングで共有して対応している。遠方の家族も年に数回はホームを訪れ入居者の様子を確認しながら職員との話し合いの場をもっている。改善や見直しが必要な事柄については記録に残し家族へ説明している。	意思疎通が困難な入居者へは表情や行動を推しはかりながら支援しているが、管理者はそれが、本当の入居者の気持ちなのか確かな答えはないとして、今後もしっかり対応していくとしている。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に、意見をしている、また、朝、昼、夕の申し送りで、自由に意見が出来るようしてある。	職員会議や普段の勤務の中で職員は自由に意見を出し合っている。出された意見は入居者のケアや業務改善に反映されており、母体医療機関による健康診断やインフルエンザの予防接種などの支援は入居者に接する職員の体調管理を支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり、勤務表、出勤簿が準備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT・職能向上委員を設置し、各職員の具体的な取り組みを書類にまとめて実施出来るようにしている。必要と認められた場合は、外部研修へ参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々グループホーム協会主催やブロック会の研修に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設へアクセスがあったときから、利用相談関係の書類への記入をする。アセスメントシートにてご利用前に調査・対話記録などをのこし、本人の好きな事や嫌いな事を事前に直接調査し、性格や変化を検討し相談を進めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時より、家族のニーズの見極めが出来るように規定の書式に記入相談し、介護支援計画も決定前に1度は目を通してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時より、家族のニーズの見極めが出来るように規定の書式に対応優先順位を記入できるようにしている。また、カンファレンスやT式カードの使用で随時必要と思われるケアを優先するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様と共同で考えたり、洗濯ものを畳んだり、一緒に掃除や後かたづけをし、できるだけ生活共同体的な配慮をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1度ほどの家族会を催して出来るだけ参加を促している。また、面会もいつでも受け入れている。帰宅願望がある方は、自宅に連絡をしたり対応を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出ともに毎月数回行っている。	当ホームは家族の面会が多く、入居者とゆっくり時間を過ごしたり共に外出されるなど協力が得られている。入居者の馴染みの商店での買い物や美容室の利用には地域資源を活用し支援している。又、姉妹での買い物を楽しみにしている入居者へ職員が同行したり、誕生日の外出に本人、家族と共に出かけ入居者のケアを職員がすることで、家族の負担を減らし有意義な外出となるよう個別支援を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おもにコミュニケーション支援を通じて、菜園や地元のお祭り参加などで仲の良い利用者様同士で協力できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や地域の施設との話し、受け入れ先などを家族と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに個人の生活習慣を反映し、本人の大切に思うこと、また、出来ることから優先順位をつけて実行できるようにしている。また、記録に残すようにしている。意思の疎通が困難な時は無理強いしないよう心がけている。	Tカード(個別介護検討表)を活用し、個々に必要な支援の優先順位を決め対応していく事で入居者の思いに応えている。普段より入居者の希望を聞き取りながら記録に残しプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの経過は、アセスメントをとり、ケアへ具体的に反映できるよう努め、新しい昔のことの発見などは常に個人記録へ書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報をもとに、随時状況判断が出来る職員が、本人の生活に合わせて、外出や畑仕事、家でのおんびり出来るよう心がけている。玄関掃除、茶碗洗い、洗濯物の取り入れ等は職員と一緒にやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てるときに家族と話し合い、計画をよく見直しして対応するようにしている。また、毎日昼に個人カンファレンスを行い話し合い、常に新しい変化へ対応している。モニタリングはケアマネと職員が話し合い、家族との相談も踏まえて変更作成している。	本人、家族の意向をもとに担当職員の声を反映し、話し合いを重ねながらプランを立案している。定期的なモニタリングで評価しながら見直し、変更が必要な場合には再度家族にも意見を求め、修正、変更し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ、随時変化、変更について記録を残している。また、通院介助、外出、面会、カンファレンスでの変更など記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日、ご利用者様1名つつ、昼に申し送りとかんファレンスを兼ねて、話し合いを職員がしている。そして、記録を残すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様が、町の方と出会い、良い関係が気づかれるように外出を心がけている。また、御領ふれあいほーむご利用に協力できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所は、家族との話し合いで連携医の場合は、申し送り書に必要事項を記入して対応している。他の医師は主に家族とのやり取りが主であるが、状況については職員が聴き記録をしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援している。母体医療機関をかかりつけとする入居者も多く、受診に対応している。他の医療機関を家族が対応する場合は情報の共有に努め、必要に応じ職員が同行するなど柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医の看護師と連携をしている。状況の変化時に常に対応できるよう申し送り書に記入連絡が出来るようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	平成24年8月10日～22日まで入院された方がいたが、食事や物品等の申し送り等はうまくいっていたが、残薬の調整が数と日が合わず、何回か問い合わせた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だ該当されるご利用者がいない。	ホームの方針として現在のところ医療行為を必要としない状態まで支援する事としている。これまで終末期支援の事例はなく、重度化した場合や終末期に関する家族の意向の確認等は行なわれていない。	今後は重度化や終末期に向けた対応について、方向性をホーム全体で話し合い、母体医療機関が隣接しているが必要に応じた職員研修の開催が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成24年8月31日消防士に来てもらい、職員会議時施設内研修において、救急蘇生法、AED使用法、骨折時対応、窒息時対応法を学び報告書を提出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災避難訓練と火災通報訓練とを交互に行い、年に2度は、消防署へ火災通報避難消火訓練をしている。	年二回の総合訓練や火災の避難・通報訓練を月交替で行う他、毎日最終火元確認を行う等、災害対策に努めている。又、地元消防団員の運営推進会議への参加や、今後ホーム職員が消防団メンバーに加入予定であり、管理者は心強く有難いと語っている。	火災・自然災害について地域との防災の取り決めについて検討したり、日々の火元確認に加え、定期的にホーム回りやコンセントの安全確認等記録に残す事で更に災害対策が強固なものになると思われる、取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時、個人情報取扱承諾書は、家族と本人へ1時間ほどかけて、全文の読み合わせをしている。居室へ訪問する時や、排泄介助時は必ずノックをして「失礼します。」と言って入室している。更衣時、排泄時はドアを閉めて対応している。	入居時に個人情報に関する説明を行い、使用に関する承諾を得ている。プライバシーに配慮したトイレ介助や入浴も出来るだけ同性介助で対応し、食後の下膳も入居者の表情や雰囲気配慮しタイミングよく行なう事を共有している。ホームの雰囲気は入居者の尊厳に通じるという考えのもと、早出職員が退室する際、日誌の中に「本日の施設の雰囲気採点」という項目を設け振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者が希望された時は、玄関掃除、散髪、自宅へのドライブや家族への電話等対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間は、体調に合わせて声かけして対応している。その日の体調を見極めて楽しんでもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きてきて、着替えをし、身支度を自分の好みで選び着替えれるようにしている。入浴後の整容は自分で出来る人はお任せしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を聴き、炊飯手伝いや、準備片づけを常に行っている。外食へゆき好きな物を食べる機会を作っている。	法人厨房で調理された副食を利用しているが、主食のご飯はホーム内で準備し、炊きあがる匂いや温かさを感じ取ってもらっている。茶碗や湯飲みなど使用する器は全て自宅から持参したものである。体調や食欲に応じメニュー以外の食べ物で対応したり、苦手な食材への代替えなど母体の医療機関の指導も受けながら楽しい食事支援に努めている。	入居者は配膳準備や茶碗洗いなどできる事を行なわれており、管理者は今後、おやつ作りを一緒に取り組みたい意向である。実現に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に5~6回ほど飲み物を準備し出している。記録も残し、利用者全体の血圧が落ち着いた。外食や会食での弁当等で、出来るだけ食事で色々な楽しみを見出せるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人声かけを行っている、拒否がある時は、お茶でうがいをしてもらっている。強化月間での実施がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録して、前もって声かけや、対応が出来るようにし、失禁の回数を減らせる努力をしている。オムツは夜間のみで、昼間は普通の下着を付けてもらう。	排泄パターンを把握し、時間にゆとりを持って声かけや誘導を行い失敗のない排泄支援に繋げている。日中は全員トイレで、又、できるだけ布下着で気持ち良く過ごせるように支援している。自室のトイレや共同トイレ、夜間のみ使用されるポータブルなど気持ち良く使用できるよう、職員は掃除を徹底し清潔に保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をし、便秘があるかどうか事前に気づくようにしている。必要に応じて通院し便秘薬の処方してもらっている。他に日に7回の好きな飲み物を飲んでもらっていることで、極端な便秘に悩まれているかたは少ないと思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日でも、希望されれば入浴してもらっている。基本的には1日おきに入浴できるようにしている。拒否が強い方は、時間をおいて声かけしたり、清拭をおこなったりする。	基本的には一日おきの入浴を午前・午後と一日を通し支援しているが、毎日の希望へも対応している。拒否の方へは時間をずらしたり、清拭により清潔に努めている。ゆず等の季節風呂以外にも、職員のアイデアで花(造花)を浮かべたり、一番風呂や希望の湯温等、ゆっくり楽しい入浴支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握して、無理のないようにしている。特に昼夜逆転がっても、眠れるときに眠ってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬カレンダーを使用し管理する。朝、昼、夜の服薬は担当者を決めて準備する。服薬時は、飲み終わるまで確認している。週に2日夜勤者が保管分の服薬を調べる。服薬管理委員の設置。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭き、食後の後かたづけや炊飯手伝い、洗濯物片づけ等役割を持って職員と行っている。時々、外食やドライブ、夏祭りなどへ参加し生活の心地よい刺激を得られるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋に集中して朝や夕方外へ出るようにしている。時々買い物等で外へ出たり、縁側でゆっくり過ごす時がある。	ホームは二階に設けられているが、個々の体調に配慮しながら外出の機会を設けている。特に過ごしやすい春・秋、朝・夕は日常的に近隣の散歩や、畑の様子を見に出かけたり、隣接保育園に散歩や交流に出かけている。又、希望に応じ職員との買い物や外食、家族の協力による帰省、地域の方々と交流の機会である地元のまつりにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様の小遣いは、固執される方がないので、職員がロッカーで施錠して管理し、金銭の使用時は、毎回職員が出納帳に記入するようにし、利用者様の家族が面会時、出納帳を確認しサインをもらって間違いがないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望が強い方は、家族へ電話したりしている。利用者様で携帯を持たれている方がおり、家族からの連絡はその都度取り次ぐようにしている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの設置により静かに過ごせる所がある。畳を引いた場所は利用者様が自由に寝転ばれる事がある。昔ながらの音楽をかけることで、不穏行動が少なくなった方がいる。エアコンは温度調整に気を使っている。喚起を朝と夕で行っている。	季節の花や観葉植物が飾られたホーム内は明るく、入居者が寛げるソファ、季節や入居者の状態によって畳のスペースを設けている。又、洗面所やトイレをはじめ共用空間の掃除や整頓が行き届き、安全で居心地の良い空間となっている。職員は換気や室温管理を小まめに行い、音響や音楽の選択にも配慮し穏やかな日常を支援している。	椅子に取り付けられた杖の収納箱に、一工夫をする事でより温かみのある手作り感が出ると思われる。職員のアイディアに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3か所ほど、ソファを設置、仲の良い方、そうでない方との居場所を作っている。各個室で自由に一人の時間が楽しめるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの物は、個人の物の持ち込みである。毎月、職員が各個室を掃除・整頓・危険物の確認・食べ物の確認を行っている。部屋の周りに家族の写真を貼っている。	それぞれの居室には家具や衣装ケース、使い慣れた帽子や時計、懐かしい思い出の写真などが持ち込まれ入り口や居室内に掲示されている。職員は日々の掃除以外に毎月、安全確認を兼ね大掃除を行なっている。又、停電等の非常時に供え、懐中電灯の持参を家族に依頼し、それぞれの部屋に準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂の出入り口ののれん。トイレの張り紙等にて自分で解るような支援を心がけている。		